

ほんまるあと じょうない ほくたん とうざい なんぼく
本丸跡は城内の北端に位置し、東西約 190m× 南北約 90m の
きぼ ど ぼし れんけつ うまだし しょうき ぼ くるわ
規模で、西側には土橋で連結した馬出と呼ばれる小規模な曲輪が
ふぞく はんしゅ おなり ぎょうせいせつ
付属しています。本丸内には藩主の御成の場であり、行政施設で
もあるほんまる ごてん 本丸御殿が建っていました。本丸への入り口は西側のにしご
もん だいどころもん 西御門・南側のふくげん 台所門の2つがあり、現在西御門は復元されています。

これまでに西御門復元せいびかんれん 整備関連やレーダーたんさ 探査、御殿跡のないうち
確認かくにん などで 10 度のちょうさ 調査が行われています。西御門跡の調査では、
門の規模は東西 6.4m× 南北 5.6m で、石の上にははしら 柱を建てた礎石
たてもの 建物と分かりました。西御門付近のどるい 土塁や土橋などではいしがき 石垣や石
垣のうらごめいし 裏込石も見つかり、石垣はしぜんせき 自然石をそのまま積み上げるのづら
積み ず 積みでこうちく 構築されていたことが分かりました。御殿跡の内容確認調
査では直径 1m ~ 1.5m ていど えんけい 程度の円形の石のれんぞくてき 集まりが連続的に見つ
かり、これは礎石の下のねがた 根固めのぐりいし 栗石で、御殿のどだいあと 土台跡と考えら
れ、建物の規模や位置の判断材料になります。出土遺物ははんだんざいりょう 陶磁器・
はさみ けせり 古銭などがあつたほか、かわら 瓦やくぎ 釘などのけんちくしざい 建築資材
もみつかりました。

げんざい こうえん
現在は公園として
かつよう
活用されていますが
このようないちじ 当時の城
の建物のこんせき 痕跡が地面
のねむ 下に眠っているの
です。



本丸御殿の土台跡 (令和 3 年度調査)